



Weekly News

龍ヶ崎中央ロータリークラブ

2011.08.26

No.00669

R I District 2820 CLUB 50504

会 長：城出鴻二郎 幹 事：横澤啓二 連絡先：TEL 0297-66-3258 FAX 0297-66-3280 <http://rcrc.web5.jp>
 事務所：〒301-0032 茨城県龍ヶ崎市松葉 5-12-6 例会場：〒301-0857 茨城県龍ヶ崎市泉町 1592-77 (ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎)



本日のプログラム

【クラブ協議会④】

クラブ会長・幹事

次のプログラム

【会員卓話③】

横山会員
職業奉仕委員会

8月の主な行事：地会員増強および拡大月間

第 668 回例会報告

点 鐘：城出鴻二郎会長
 ローターソング：手に手つないで
 ゲ ス ト：伊藤廉さん（国際親善奨学生）
 山口洋一さん（元会員）
 ビジター：なし

会長報告：城出鴻二郎

■17日、竜生園にてジュニアボランティアの子供たちと75人のお年寄りの交流会が開かれました。



米島さん、川上さんご苦労様でした。何か、久しぶりのプリンの差し入れとか、好評のようでした。

竜生園も組織が大きくなり、入寮されている75人のお年寄り以外、デイサービス、その他もあり、スタッフも90人になるとか、地震の被害もなかったようで、何よりでした。宮城福島の現実を置き換えると相当の悲惨さを招くところでしたが、内陸部ということもあって、過去の小貝川の氾濫が相当規模で氾濫になるような場合には、非難等大変なことになる施設でもあります。

■本日は2002年に国際親善奨学生として、イギリスの建築を学んできました、伊藤君・実は取手クラブさんの推薦ですが、当クラブにおいでくださいました。久しぶりの一時帰国ということですが、後で少しお話をいただきます。伊藤君のプロフィールは回覧いたします。伊藤君は現在ポルトガルで、建築設計をしています。彼の師匠アルバロシザはポルトガルの丹下健三か、今流行の安藤忠雄というところでしょうか、ポルトガルの重鎮です。彼が少し前に受賞した、プリッカー賞は建築界のノーベル賞として高名な賞ですが、茨城県にも高名な建築家がいて、これも女性で妹島和世さんといいますが、専念同じプリッカー賞を受賞

されており、国際的な建築賞を総なめにしている50代の建築家があります。お父様は、日立製作所にお勤めされていたようで、溶接の神様とまで言われた方ということを知っています。将来、そのプリッカー賞を伊藤君にも取ってほしいと思います。

■また、先々週の納涼会ありがとうございました。料理もおいしくいただきました。龍ヶ崎にも少しずつ新しい雰囲気のお店ができて、少し赴きも変わり始めているのでしょうか。ニュータウンの松ヶ丘等々あのあたりには、新しいレストラン、食事処も増えており、いくらか都市部と同じ様になりつつあるようです。これからは、近隣の都市に行かなくても、よいお店があるのではと思います。

■ゾーン担当の桑原コーディネーターから大震災のロータリーブログを立ち上げた趣旨のご案内が来ています。塩釜ロータリーのバスターガバナーで、当地区にも研究会の講師として、おいでいただいたことがございます。今回の大震災でも大変なご苦労をされています。当地区としても義捐金をお送りしたようです。

■高校生ボランティア行事について、後ほど米島委員長からご連絡があります。詳細をご案内いたします。

■最後になりますが、例会プログラムは大竹さんの卓話になっていましたが、今週になって急遽市議会の全員協議会が本日開かれることになり、お話ができなくなりました。後日改めてお願いいたしますので、ご了承承願いたします。先程も申し上げましたが、伊藤君が参加されていますので、少し彼のお話をいただきます。時間が残るようでしたら、会長のおしゃべりでご容赦願います。

国際奉仕委員会

国際親善奨学生であった伊藤廉さんがクラブを訪問してくれました。ポルトガルでの活躍今後も楽しみです。



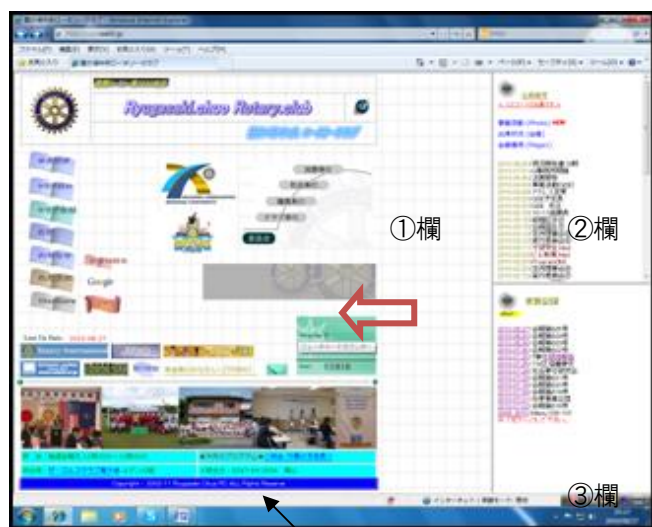
クラブホームページの活用方法

広報委員：横山善英

本日、クラブのホームページ（CHP）について説明ができる機会を頂けまして感謝申し上げます。このCHPは会報を中心として掲載されておりますが、それだけに限らずクラブとしての情報発信や記録保存に大いに活用できるものと信じております。すでに、姉妹クラブや情報内容についていろいろと問い合わせが来ておりますが、最近では苫小牧RCが国際奉仕のWCS事業（クリスマスドロップ）に関心を持たれているようで、クラブの20周年記念WCS事業としてこの「クリスマスドロップ」に参加したいという申し入れがありました。現在、検討中とのことですが、できれば10月末から11月初旬に駆けて当クラブを訪問したいとの打診を受けている状況です。以上のようにCHPは会員のみならず一般市民にも広がり活動の幅を大きくすることができております。

それでは、まだまだクラブ会員にも活用されていないようですので今一度使用方法をご説明したいと思います。

まず、CHPを開くと次のような画面が現れます。写真

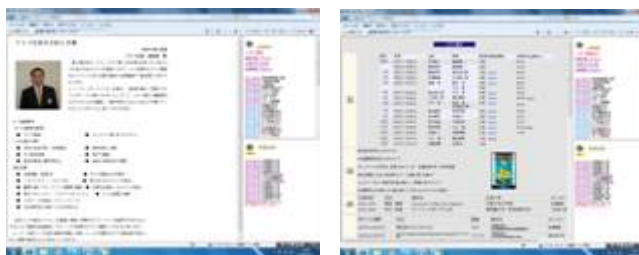


では判りづらいのですが、①欄には「会長挨拶」「クラブ紹介」「クラブ会報」「広報」「お知らせ」「亀尾文庫」「Members」「創立十周年」「7分区」とタテに順番になっておりましてその部分を「クリック」するとその内容が表示されるようになっております。

②欄は「Member」専用になっております。「パスワードが必要です」の部分をクリックし、所定のパスワードを入力すると「パスワードが解除されました」と表示され、その欄を全部見るできるようになっています。③欄は主に会報を中心とした内容で一般の人が誰でも閲覧できるようになっています。一番下段の「2009-2010」をクリックすると2009-10年度のMENUに切り替わるようになっておりまして、切り替え

た欄でも同様に該当する年度をクリックすると順番にその年度に切り替わるようになっております。

それでは、具体的に中身をご説明したいと思います。

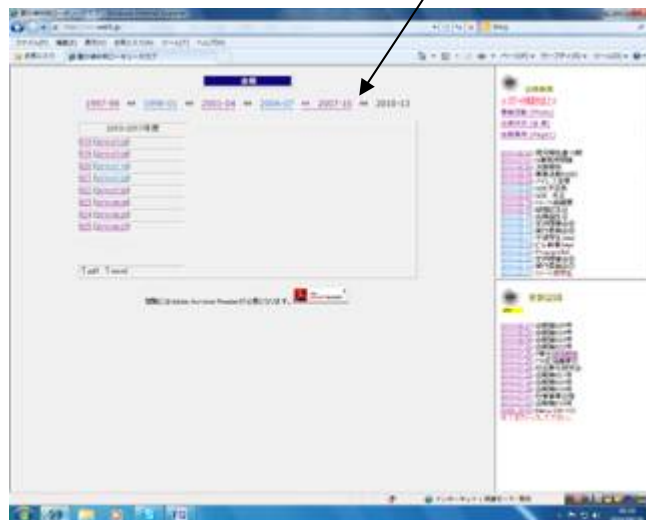


「会長挨拶」

「クラブ紹介」

上記写真のように①欄の見た項目をクリックするとその部分が上記のように表示されます。ただし、「亀尾文庫」に関しては、この欄が「ロータリーになぜ日の丸君が代か」を先頭に「綱領の変遷」「決議 23-34」「四つのテスト」「豆知識」「入門」「職業奉仕」「奉仕の心と標語」の8項目が掲載されておりますので特に新会員は一読をお勧めしたい部分です。

「クラブ会報」につきましては、前年度、亀尾会員や荒木会員等の協力を賜り1997年の創立総会から本日まで全ての会報が収めてあります。この部分をクリックすると年度別に表示されますので見たい年度をク



リックし「会報 No」を指定すると pdf で、「発行年月日」を指定すると doc (word) で見ることができます。力作ですので時間があつたら是非訪れて欲しいページです。会報はいうまでもなくクラブ情報発信や例会・事業報告には欠かすことのできない貴重な記録になります。毎回会員皆の寄稿は報告が頼りです。今後とも宜しくお願い致します。

又、よく確認したい部分が毎週例会の予定表です。この部分をクリックすると下記のようなカレンダーが表示されますので大体の予定が確認できます。最近では小窓も設けましたので、そちらでも確認ができます。

本日のプログラム

会長談話

城出鴻二郎

■福島原発も紆余曲折、試行錯誤、人災等々といいたながらも、新たな水素爆発も回避ができるようですから、このままで、収束方向になってくれればと思います。地震直後の混乱は、思っても見なかった事態ということもあってか、災害、防災訓練もなかったようで、わが耳を疑うような証言もあり、まさしく人災そのものの感がいたします。

いわく、非常用の冷却設備を、非常時になぜ停止したのか、単なる運転要員の判断で、なぜ停止したのか、その停止がなぜ所長まで、あるいは直属の上長にも報告がなかったのか、あったのか、少なくとも、非常用の蒸気冷却装置の停止を運転中として対策を検討していたというような状況自体、混乱というか、まったく危機管理以前の初動体制で、海外の専門家たちの証言を総合すれば、水素爆発は当然の結果であって、想定外などというような判断は専門家失格というような発言が相次いでいます。

明らかに、1980年以降では、福島原発の脆弱性、危険性は世界的には周知の事実であって、当時の国内の関係者の発言は曖昧模糊として、非常用発電機の設置場所についてはまったく無知蒙昧の専門家集団であって、保安院とか、原子力安全委員会とかの関連の全の不誠実な無責任な集団になっていたようです。今後、誰の責任とか言う程度の話ではなく、太平洋戦争は誰の責任で何のきっかけで始めたのかと同じ程度の究明になりそうです。電力会社の思惑通りに、政府、関係省庁、メーカー業界が都合のよい面にのみ集中し、都合の悪い部分はそれぞれに自分たちでない誰かの範疇の責任で、感知しない体質を形成してきた結果というようになりそうです。

■原子力産業は裾野が広く、高度で、1人ですべての専門分野を把握することができないために、このような無責任とも見える形ができたようですが、研究者の間では、危険性や、問題点、改善点は周知の事実であったようです。でも、個人的にはそうであっても、学会としては、知らん顔、それぞれの関係者の問題、電力会社、メーカー、政府の判断事項ということで、感知しなかった経緯がありそうです。

こうなると日本的な成り行きで、誰の責任も問わないで、対策を打つ程度の解決になるのかと懸念します。現に、放射線量の基準すら決定できず、決定したとたんに全ての基準値以上の現象はコストも含め賠償問題も含めて解決するしかなくなることから、今後は食品、住環境、生活環境での問題が多様な形で出てくることになるのではと思います。裁判を好まない日本人ならではの現象は、黒白をつけないあいまいさのために、時間とコストが全て国民に降りかかってくることで、時間は被害の増大を招く結果になるのは過去の公害問

題で証明済みですから、泣き寝入りも含め大変なことになるのではと懸念します。現に、弁護士関連の皆さんも、訴訟を回避するためか、スムーズに裁判を進めるためか、調整機関を作るとか、ことの理非を正すための訴訟ですから、裁判に入ることで意味があるのではと思いますが、結果的に裁判を思いとどまらせるための調整役を考えているとしたら、いかにも日本的なという感じがいたします。

■先日、16日のテレビで理化学研究所のSACLAについて立花隆さんが解説をしていましたが、いわゆる、日本の科学技術の最先端ということでしょうか、少し調べてみましたが、立花さんの生まれは長崎ですが、両親が茨城県人という事で水戸一校出身だそうです。ロッキード事件で著名になったようですが、このごろはご自身がガン患者ということもあって、その関連分野の技術的な側面に傾注されているようです。SACLAとは何か、詳細は省きますが、要するに、X線レーザーの照射による、顕微鏡というような概念になるそうです。我々の扱う原子顕微鏡とはまったく違いますが、その用途はたぶん無限に広がっている分野のようです。それはなぜか、レーザーの光というか波長の時間と振幅が非常に小さいというのが味噌のようで、オングストローム単位で計測し、1秒の1000兆分の1の時間を計測できるとか。全ての物質の構成要素を分解して、垣間見ることができる極限の小ささということになります。要するに、科学反応をスローモーションで観察できる虫眼鏡ということだそうです。

■分子科学の世界では現象をシュミレーションすることで「世界で1番でない困るのですか」式の超高速コンピューター「京」のような計算速度で処理をしてたぶんそういう仮定で化学変化をしているのでしょうか、ということを実際の物質変化を直接観察できる装置ということで、薬品、製薬、金属その他根源的な原子の世界を直接的に変化する状況観察ができるというように、世界に先駆けて発明発見が続いているようです。瞬間的に科学反応する実態を直接的に観察することで、効率的に開発が進み、変化の過程を理解できることから、無駄な試験や思考研究を省くことができるということで、加速度的な開発が進むそうです。ヨーロッパ、アメリカでも取り組んでいるようですが、レーザーとしては設置直後からその性能がアップしており、世界記録の連続のようです。最小長さ、最短時間の記録を大幅に更新しているとか、わかるようでまったくわからない世界のお話でした。



自分でも原子顕微鏡を使うことがある関係で、物質の拡大を30000倍程度まではやれますが、それ以上は熟練技術も必要ですし、その程度では、30000分の1でし

かありません。それが100億分の1の世界ですから、原子の形と動きが見えるというのは創造を絶する領域です。ちなみに今はやりの水素の直半径は1.4オングストロームです。これからは、DNAの形も実際の形が公表されるのではと思います。少なくとも100年前は哲学上の概念、宗教領域の創造世界でしたが、ようやく、原子の形を見る領域に入ったということで、大変な時代になったものです。その割に、われわれは金や水や石油に執着しているのですから、この距離感の違いは何なのでしょう。

例会訪問

山口洋一元会員

本日の例会に、急遽山口元会員が訪れてくれた。残念ながら家庭の都合で退会を余儀なくされたものだが、先日母を亡くされたにも関わらず元気なお姿をお見受けすることができて私達も安堵を覚えた。退会するには様々な理由があり挨拶もされずに自然消滅された会員も多かった。このように、退会後も自由に訪問できる環境づくりの必要性を深く感じた訪問であった。



社会奉仕委員会

■平成23年8月17日、水曜日、竜生園お年寄りとの交流会が開かれました。我々も近々お世話になるかも知れませんが、高齢に伴う問題は数えたら切りがありません。私の身近な知り合いにも少子高齢化の余波をまともに受け、気が付いたら周りには誰も頼る人がいなくなってしまったそうです。話す相手もなく、毎日TVを観るだけの生活。たまに娘が寄ってはくれますが、その娘にも迷惑をかけると配慮し、とうとう自分で施設に申し込んでしまいました。



肢体が不自由にでもなったらともかく、90歳近くになって、体が自由に動くのにも関わらずこのような判断を強いられたとは、何か一抹の侘しさ寂しさを感じられずにはいられなかった。総理大臣や政府の皆さん。老後の生活を安心して過ごせるよう何とかしてください。



■平成8月25日から26日に駆けて福島県新地町へ高校生ボランティア事業の一環として出かけることにな

っています。地元高校生ボランティアグループと一緒に被災地仮設住宅にお住まいの方とお話をしたり、プランターに花を生けて設置を行なって、25日の朝7時ごろに出発し、交流や作業を終えた午後5時頃に猪苗代湖付近で宿泊する予定となっております。

この事業はグアムサンライズクラブと竜ヶ崎ロータリークラブとの共催となっており、竜ヶ崎市、竜ヶ崎市社会福祉協議会の多大な協力を得て進められます。放射能の状況も心配されますが、竜ヶ崎市長も参加されるとのこと。会員の皆様も多くの方が参加されますようお願い申し上げます。

本日出席状況

会 員	20名	出席率	66.67%
出 席 者	9名		
出席免除者	2名	亀尾会員	吉澤会員
(定款第9条3節a)	1名	馬場会員	
Make-up	3名	横澤会員、大竹会員、荒木会員	

ニコニコボックス (目標額 600,000 円)

本日 6 件 16,000 円 (本年度累計 68,000 円)

山口洋一様：母の葬儀にクラブより香典を頂きました。

海老原会員：山口さんお久しぶりです。

川上会員：国際奉仕セミナー報告は次週致します。

椎塚会員：少し過ぎしやすくなりました。

米島会員：社会奉仕事業をよりました。

横山会員：涼しさが戻って来ました。

ロータリー豆知識

《ガバナー公式訪問を前にして》

(亀尾会員)

ロータリーは、単位クラブとその集団である国際ロータリー(RI)から成り立っています。地区というのはRIの組織の一部で、RIの役員であるガバナーによって管理されています。

公式訪問では

- ①会長幹事との会談を行ないガバナーはクラブの実情を聴取し、クラブは問題点を提起して、クラブ運営の成功を図ります。
- ②ガバナーは例会において会員に感銘を与えるようなアドレス(米国大統領の教書に習って、公式訪問時のスピーチを言う)を行なう。
- ③クラブ協議会で各委員長が活動計画を報告し、ガバナーの指導を受ける。委員長以外の会員も、特に新会員は必ず出席するよう要請されている。

例会の欠席は、水曜日 AM:10:00 までに川上副 SAA
TEL 090-3497-0383 に連絡して下さい。